

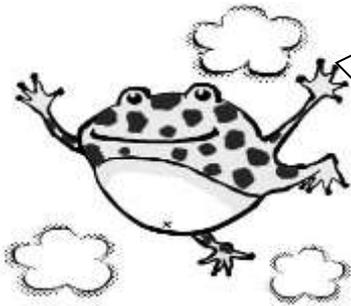
かえる便り 30年度20号

平成30年10月29日

秋涼の候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

部員は自分達と皆様の想いを込めて戦いましたが、残念ながら2回戦で敗退しました。彼らは自分達が多くの人に支えられプレー出来る喜びを感じていました。特に、保護者の皆様の心強いサポートを感じ、その恩に報いるために努力してきましたが、部員や私たちの努力不足で目標を叶えることが出来ませんでした。

毎年、大会後に3年生部員が胸中を吐露しますが、その言葉の重みや意味を真摯に受け止めて努力を継続したといえる人がどれだけいるのでしょうか？今年の3年生は先輩達の言葉の本意を感じていた者が何人かいたように思うけれど…。 “勝つ”とは誰でも言えますが、勝つための努力を継続できる人は多くいません。継続した人は “天才” だとか “一流の人” だからと別格視して、言い訳をすることがよくあります。彼らの小さな事に拘った凄い努力を見ていないで、“あの人は違う” とよく言います。時間の使い方と工夫、失敗の分析など “神は細部に宿る” のです。



今年の負けは本当に悔しくてたまりません。強化試合を多く経験させたのも、皆様の想いと部員の意欲をヒシヒシと感じていたからです。情けない思いでいます。毎年繰り返される失敗を今年はやさまいと誓い、心に訴えてきましたが力不足でした。小さなミスが大きなミスを招くという法則があります。スタッフと部員全員が小さなミスを見逃していた結果です。私も猛省しています。

今の自分は何が出来、何が出来ないのかを多くの人が知っていると思います。その判断材料は、多くが過去に得た知識や自分の経験です。しかし、無理だと思えることを成し遂げている人もいます。そのような人に共通していることは、失敗から多くのことを学び、失敗の原因を分析し対策を考えています。失敗を生かすために重要なことは “完成形を具体的にイメージする” ことだと思います。変えるために、具体的な目標を持ち、完成形をイメージして努力をして欲しい。過去に縛られる自分でいたいと思いますか？可能性は誰にもありますよ!!

大会中、多くの皆様にご声援並びにご支援をいただきありがとうございました。予祝会で得た感動を1年後に生かせるよう最善を尽くします。ありがとうございました。